

昭和62年8月

生涯学習体制の確立



木田 宏
専門委員

臨教審の専門委員として、一部ではあるが、その審議に参画した以上、その意義や成果について述べることは憚られる。しかし、「臨教審を振り返って」と尋ねられ、今後に残すべきものは何かを考えると、まず浮かぶことは、生涯学習の基調である。

答申の中で述べられていることは、漠然とした夢物語りのようではあるが、これは、青少年期の教育、成人期の労働、高齢期の余暇という人生の生活区分を変え、労働時間を割いて学習を行えるように、社会システムや国民生活を変えようとするもので、二十一世紀に向けての大改革になる要素を持つものである。教育の力点は自己学習に移り、教育行政の対象は、教育機関から学習者に比重を移す。国際化、情報化への対応も、秋季入学の課題等も、生涯学習の基調の中でこそ達成されるというものである。

国民的合意を是非求めたいと思う所である。